原点★01

田中 恵美子

段ボール箱が一箱、届いた。長らく連絡を取っていなかった知り合いからだった。中身を見ると、いくつかの単行本に混ざって、「旅行のソフト化をすすめる会」が編集した旅行ガイドが数種類あった。「旅行のソフト化をすすめる会」は、1989 年 11 月に、全国社会福祉協議会版『障害者旅行ガイド』の作成メンバーと「第一若駒の家」のメンバーが、「パソコンを利用して時代の変化に対応した新しい旅行ガイドを作成するという共通目標のために協力し合う」団体として設立されたという（「旅行のソフト化をすすめる会」http://www.arsvi.com/o/a-tic.htm）。なぜその資料が私の元に届いたのかと訝しく思う人もいるだろう。

実は私が障害のある人たちとの関わりを持つきっかけになったのが、旅行だった。1995 年当時、私は小さな旅行会社に勤めていて、そこは手配旅行専門の会社だった。九州に「希望の翼」という団体があり、その人たちのための手配旅行を作ったことがきっかけで私は障害と出会ったのだった。「希望の翼」には、杖と車いすを利用している笑顔のさわやかな、凛とした女性の代表、英語の堪能な杖をついている女性、元気でケラケラよく笑う言語障害のある車いすを利用している女性、一人でいることを好むけれど、さみしがり屋の車いすの男性、言葉はないけれど、とびっきりの笑顔を見せてくれる重症心身障害の女性とその母等、日常は施設に暮らしている人から地域で働いている人まで様々な人が所属していた。代表の女性は、こうした様々な状況の人たちをまとめて、毎年 1 度国内から海外へと旅行を企画して出かけていた。そして、彼らとともに北欧に出かけたことで、私は日本の障害に関わる問題について興味を持つようになった。

「希望の翼」での旅行の後、私はどのようにして調べたのか（当時はネットもそんなに使えなかったけれど）、誰かに教えてもらったのか（きっとそうに違いない！）忘れてしまったが、「もっと優しい旅への勉強会」（以下、「勉強会」）という会に参加するようになった。そこに草薙威一郎という人がいた★02。どう表現したら伝わるのか分からないが、頭はよかった。障害のある人もない人も当たり前に旅を楽しむ、今でいう観光のユニバーサルデザインという考え方を、当時から構想しているような人だった。普段はあまりはっきりとモノを言わないが、理不尽なことには声を荒げて真っ赤になって怒る人だった。年齢や立場の上下で対応を変えたりしない、平等で対等な人だった。仕事帰りに会合に参加し、そのうち運営側にも関わるようになり、毎月発行される会報を担当し、会社を辞めて二度目の大学生になるとより自由に会にコミットしていった。勉強会で旅行にも何度か行った。

2007 年 5 月 18 日、勉強会の代表だった草薙さんは亡くなった（享年 58 歳）。私は二人目の娘を出産し、その育児をしつつ博士論文の仕上げで家に籠っている時期だった★03。お別れの会に出かけたのが久しぶりの外出だったような思い出がある。もう少しでもう一度草薙さんと一

緒に何かできるようになるのに、と思って悔しかった。現実として受け止められなかった。

私の元に届いた段ボールはその会の最後の荷物である。箱を開けて、中身を見ながらそんなことを思い出していた。そして、箱の中にあった大事なもの、「旅行のソフト化をすすめる会」に関する資料は生存学研究所に送った。立岩さんが快く引き受けてくれた。誰かの役に立ったらとてもうれしい。

ちなみに私自身は「旅行のソフト化をすすめる会」との関係は深くない。ただ、「勉強会」との関係の中で、そしてその後自立生活に関わるなかで会の代表であった「第一若駒の家」の大須賀さん★04 にお会いしたことはあった。うっすらとした記憶……。

私自身は、その後「勉強会」で知り合った旅行の資格を持つ成瀬史恭氏（脳性マヒ）の、そして妻の成瀬君子氏（脳性マヒ）のボランティアをするようになって旅行から生活へと関わる範囲が広がっていく中で、障害のある人が生きていく、あれこれに壁があることを共に経験し、その理不尽さに憤りながら、今日まで来たように思う。だから、旅行は私にとって原点である。旅とか一人暮らしとか結婚とか子育てとか…やらなくてはならないものではないものだけど、やりたいのにやれないのはおかしいものをどうしたらやりたい人がやれるようになるのか……、と格闘する日々が私の研究である。

■編集部註

★01　2023 年 4 月 27 日、立命館大学生存学研究所は田中恵美子さんから資料の寄贈を受けた。この文章はそれに際して田中さんに寄稿していただいたものである。研究所が受けた寄贈とそのいきさつについては、「生存学研究所：寄贈書籍・資料の受け入れ」（http://www.arsvi.com/a/gift.htm）にその一覧があり、贈と受け入れのいきさつについての文章を読んでいただける。本稿もこのページから読めるようにする予定である。

★02　草薙は國分夏子「障害者と旅行」（千葉大学文学部社会学研究室編 1994『障害者という場所――自立生活から社会を見る』（1993 年度社会調査実習報告書）、発行：千葉大学部文学部社会学研究室）にも登場する。

★03　田中は 2007 年 9 月に日本女子大学大学院で博士号（社会福祉学）を取得。その論文は増補・改稿のうえ、著書『障害者の「自立生活」と生活の資源――多様で個別なその世界』（2009、生活書院）として刊行された。

★04　大須賀郁夫（http://www.arsvi.com/w/oi03.htm）。第一若駒の家、わかこま・自立生活情報室等で活動。2008 年逝去。大須賀らの活動を殿岡翼らが引き継ぎ発展させている。現在殿岡らに対するインタビュー調査等が進められており、本誌で報告される予定である。